

令和5 (2023)年度版

# ふれあい

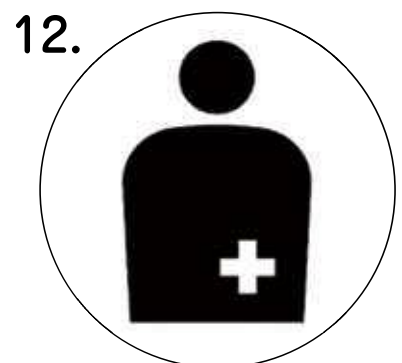
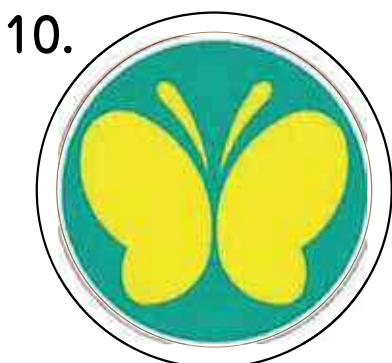
— かわさきの<sup>ふくし</sup>福祉 —



Colors, Future!  
いろいろって、未来。  
川崎市

COLORS  
FUTURE!  
ACTIONS  
KAWASAKI 100th

# これは何のマークでしょうか？



※答えは裏表紙にあります。  
うらびょうし

# みんなの しあわせ

わたしたちの周りには、ねたきりの<sup>こうれいしゃ</sup>高齢者や<sup>しょうがい</sup>障害のある人など、いろいろな人が<sup>いっしょ</sup>一緒に生活しています。

こうした人たちとわたしたちが、共に<sup>く</sup>幸せに暮らしていくには、思いやりの心を持ち、おたがいに手を差しのべ合うことが必要です。このことを「<sup>ふくし</sup>福祉」といいます。

思いやりの心は、あわれみの心ではありません。<sup>ふくし</sup>福祉の心は、共に感じる心です。だれもが、さびしさや苦しさを感じるがありますが、周りの人がかかえているそれらの思いを自分のこととして感じる心が大切なのです。一人一人の苦しみや、なやみをみんなで見分かち合い、助け合い、そして共に生きる明るい社会をつくること、それが<sup>ふくし</sup>福祉の心なのです。

このことをよく理解し、どうしたらみんなが<sup>く</sup>幸せに暮らしていけるかを考えましょう。

そして、毎日の生活の中で自分ができることから始めてみましょう。



<sup>ふくし</sup>「福祉の心」を<sup>さが</sup>まちの中で探してみよう！

# もくじ

<b>I</b>	<b>福祉の心</b> <small>ふくし</small> .....	1
<b>1</b>	<b>誕生</b> <small>たんじょう</small> .....	1
	(1) かけがえのない命 .....	1
	(2) 名前にこめられた願い .....	1
<b>2</b>	<b>だれもが幸せに</b> .....	2
	(1) 思いやりの気持ちと助け合い .....	2
	(2) みんなが住む地域での支え合い .....	2
	(3) これからの時代に向けた地域づくり ～地域包括ケアシステム～ .....	4
	(4) 川崎市の「地域包括ケアシステム」の取組 .....	5
<b>コラム 1</b>	<b>地域の身近な相談役「民生委員児童委員」</b> <small>ちいき</small> .....	6
<b>3</b>	<b>川崎市の福祉</b> <small>ふくし</small> .....	7
	(1) いろいろな福祉施設 <small>ふくし しせつ</small> .....	7
	(2) 福祉を支える人々 <small>ふくし ひとびと</small> .....	7
	(3) 福祉に使うお金 <small>ふくし</small> .....	8
<b>II</b>	<b>みんなの幸せ</b> .....	10
<b>1</b>	<b>障害があっても</b> <small>しょうがい</small> .....	10
	(1) みんな同じ仲間 .....	10
	(2) 障害のある人への思いやりの気持ちを持つために .....	10
	(3) 身近なところにある思いやりの輪 .....	12
	(4) こころとからだの成長のために～中央療育センターを訪ねて～ <small>ちゅうおうりょういく たず</small> .....	12
	(5) 住み慣れた地域での生活をめざして～わーくす大師を訪ねて～ <small>ちいき たず</small> .....	13
	(6) 障害のある人とのコミュニケーション <small>しょうがい</small> .....	14
	(7) こころの病気ってどんなこと？ .....	20
	(8) これからの障害者福祉の取組 <small>しょうがいしゃ ふくし</small> .....	21

## 2 今、子どもたちは…………… 22

- (1) 子どもの人口…………… 22
- (2) 地域社会全体で子どもを支える…………… 23
- (3) 保育サービスの充実に向けて…………… 23
- (4) 子どものすこやかな成長に向けて…………… 24
- (5) 子どもが安心して暮らせる支援体制づくり…………… 26
- (6) これからの子ども・子育て支援の取組…………… 27

## 3 今、高齢者は…………… 28

- (1) 地域で暮らす高齢者…………… 28
- (2) 生きがいづくり…………… 28
- (3) 高齢者の介護…………… 29
- (4) 介護予防・健康づくり…………… 30
- (5) 地域で支える…………… 31
- (6) 自分のこととして…………… 32
- (7) これからの高齢者福祉の取組…………… 32

## コラム 2：バリアフリーを探してみよう!!…………… 33

## Ⅲ ふれあいの中で…………… 35

### 1 わたしたちにできること…………… 35

- (1) 交流する…………… 35
- (2) 共に学ぶ…………… 35
- (3) 動物たちと共に…………… 36
- (4) ボランティア活動…………… 38
- (5) 様々なボランティア活動…………… 38

### 2 身近にある主な福祉施設…………… 40

# I 福祉の心

## 1 誕生

### (1) かけがえのない命

赤ちゃんが、すやすやとねています。

お父さんとお母さんは、「気持ちよさそうにねているね。なんの夢を見ているのかな。」と、赤ちゃんの寝顔を見てほほえみながら話しています。そのそばで、お姉ちゃんとお兄ちゃんも、赤ちゃんの寝顔を見守っています。



小さな命を思いやる、家族の愛情が伝わってくるようです。

### (2) 名前にこめられた願い

赤ちゃんの名前は「のぞみ」です。

家族の笑顔に見守られて安心しています。



### お母さんの話

「のぞみ」という名前は、お父さんやおじいちゃん、おばあちゃんたち家族のみんな考えて付けました。

これから始まるこの子の一生の中で、つらいことも悲しいこともあると思います。でも、そんなときにも明るく、望みを持って強くたくましく生きてほしい——そう思ってこの名前にしました。

あなたの名前にも、きっと家族の思いや願いがこめられていると思います。

## 2 だれもが幸せに

### (1) 思いやりの気持ちと助け合い

今、みなさんはどんな希望を持っていますか？ どんなときに幸せを感じますか？

反対に、どんなときに不安な気持ちになりますか？ さびしかったりつらかったりすることはありますか？

わたしたちはみんな、家族のあたたかい思いや願いに包まれて、幸せになるために生まれてきます。

わたしたちが暮らしているまちを見わたしてみると、赤ちゃんから高齢者までいろいろな人たちがいて、それぞれの生活の中で一生けん命生きています。また、わたしたちの暮らしは、家庭や地域、様々な仕事の中で助け合うことによって成り立っているのです。一人で生きていくことは、とても難しいことです。

そのため、わたしたち一人一人が自分とちがう立場の人たちのことを理解し、思いやりの気持ちを持って助け合うことが、とても大切なのです。

### (2) みんなが住む地域での支え合い

多くのまちでは、近所に住む人や同じマンションに住む人たちがまとまって、「町内会」や「自治会」という組織を作り、わたしたちが暮らしやすい地域づくりを行っています。

例えば、みなさんが安全に登下校できるよう見守ってくれたり、防犯パトロールをしたり、防災訓練を呼びかけたり、道路や公園をきれいにするなど、多くの活動を行っています。わたしたちが大好きな盆おどりやお祭りも、町内会・自治会をはじめとする地域の人がたくさん時間をかけて準備してくれています。

このほかにも、「<sup>ち いき</sup>地域での支え合い」はたくさんあります。この機会に、あなたの住むまちにある「<sup>ち いき</sup>地域での支え合い」を探してみ<sup>さが</sup>てください。

## 東日本大震災が発生したとき

平成23（2011）年3月11日、世界最大級のマグニチュード9.0の<sup>だい じ しん きょだい つ なみ</sup>大地震と巨大津波が発生しました。東北から関東地方の太平洋<sup>ち いき</sup>地域にとっても大きな<sup>ひ がい</sup>被害をもたらしましたが、地震や津波で被害を受けた<sup>ち いき</sup>どの地域でも、各地から集まったボランティアの<sup>し えん</sup>支援を受けながら、<sup>ち いき</sup>地域の人同士が助け合い、自分のできることから取り組んでいました。



こうした<sup>ち いき</sup>経験からも、日ごろから<sup>ち いき</sup>地域で支え合い、助け合えるような、みんなが暮らしやすいまちづくりをしていくことがとても重要だといわれています。

## やってみよう！

一人一人ができることとして、まずは、これまでよりも元気なあいさつから始めてみましょう。あなたから元気に声をかけられた人は、きっとうれしい気持ちになると思います。こうした日ごろのつながりが、「<sup>ち いき</sup>地域での支え合い」の基本になります。



また、盆<sup>ぼん</sup>おどりやお祭りのお手伝い、道路や公園のおそうじなど、自分ができる<sup>ち いき</sup>地域の活動があれば思い切って参加してみるのはいかがでしょうか。近所の人たちと親しく接することで、「<sup>ち いき</sup>地域での支え合い」の大切さと面白さを感じられるはずです。



### (3) これからの時代に向けた地域づくり～地域包括ケアシステム～

今、日本では、生まれてくる子どもの数が減っています。一方で、医療・医学の進歩や福祉制度の充実などにより、平均寿命はどんどん延びて、高齢者の人口は増えています。

これは「少子高齢化社会」といわれるもので、この傾向は、みなさんが大人になる将来に向けて、さらに進んでいきます。

このような将来に備えて、日本全国の市町村で「地域包括ケアシステム」といわれる仕組みをつくるための取組が進められています。

「地域包括ケアシステム」とは、病気や何らかの手助けが必要となっても、だれもが住み慣れた家や地域で暮らし続けることができるよう、専門家による医療や福祉のサービス、ボランティアや住民による助け合いなど、地域にある生活を支えるための様々なものや制度が効果的につながることで対応していこうという仕組みです。

#### 「少子高齢化社会で何が起きるか？」

1960年～1970年ごろ、日本国民の平均寿命は70歳前後でした。それが、今では世界トップの水準となり、女性は87.57歳、男性は81.47歳（令和3（2021）年全国平均）と、高齢者の人口はどんどん増えています。

一方、生まれてくる子どもの数は減っているため、次第に「高齢者の生活を支えてきた人たち」＝「働いている現役世代の大人たち」の数も減り、人口が減少する社会に突入していきます。

これまでの社会は、人口が増えることを前提として、いろいろな仕組みや制度が作られてきたため、わたしたちが安心して暮らし続けていくためには、みんなで知恵を出し合って考える必要があります。

#### (4) 川崎市の「<sup>ち いき ほう かつ</sup>地域包括ケアシステム」の取組

わたしたちのまち、川崎市でも、この取組を進めています。

川崎市では、<sup>こう れい しゃ</sup>高齢者だけではなく、<sup>しょうがい</sup>障害のある人も、子どもも、子育てをしている人も、健康な人も、全ての人を対象に、<sup>ち いき</sup>住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる「<sup>ち いき</sup>支え合いの地域づくり」に取り組んでいます。このような取組が進めば、だれにとっても暮らしやすい<sup>ち いき</sup>地域になるという考え方です。

そのためには、<sup>いりよう ふくし</sup>医療や<sup>せんもん か</sup>福祉の専門家の人たちだけではなく、わたしたち全ての住民が、<sup>ち いき</sup>地域に住んでいる<sup>さまざま じょうきょう</sup>様々な状況の人たちのことを理解して、「思いやりの気持ちと助け合いの心」を持って自分たちのできるところから行動し、みんなで力を合わせて住みよい<sup>ち いき</sup>地域づくりに努めていくことが大切です。

そして、もう一つ大事なことは、食事や歯みがき、運動、すいみんなど、自分が年を取っても、なるべく健康でいられるようにするための<sup>ち いき</sup>子ども<sup>ち いき</sup>のころからの生活習慣です。みなさんが仕事や



遊びなど、したいことを十分に行うためには、元気であることが大切です。「自分の心と体の健康に気を付ける毎日の心がけ」＝「セルフケア」に取り組むことが、<sup>しょうらい</sup>将来の自分自身の健康で安心な生活につながります。

このようなちょっとした取組を、一人一人、みんなで積み重ねていくことによって、だれもが安心して幸せな住みやすいまちがつかれると思います。

こういった<sup>ち いき</sup>地域を、わたしたちみんなで作っていきけると良いですね。

## 地域みまもり支援センターによる「支え合いの地域づくり」

川崎市では「支え合いの地域づくり」を進めるため、平成28（2016）年4月、各区役所内に地域みまもり支援センターを設置しました。

地域みまもり支援センターでは、住民同士が支え合って生活する地域を目指して、地域住民や町内会・自治会、民生委員児童委員などの地域の方々との顔の見える関係づくりに取り組んでいます。

### コラム1：地域の身近な相談役「民生委員児童委員」

「民生委員児童委員」は、みんなが安全に安心して生活できる地域をつくるボランティアです。川崎市には、約1,500人の民生委員児童委員がいて、それぞれが担当地域を持って活動しています。民生委員児童委員には、子どもや子育て家庭への支援などを専門的に担当する「主任児童委員」という役割を持つ人もいます。

具体的な活動としては、担当地域で生活している人を見守ったり、生活のことでなやみや心配ごとがある人から相談を受け、区役所など助けてくれる場所や人につないだりしています。

また、川崎市にある56の地区民生委員児童委員協議会ごとに「定例会」を開催していて、地域の課題などについて情報共有や意見交換をしています。

民生委員児童委員は、町内会や自治会など地域の方々による推薦によって選ばれます。



登校時の見守り



子育てサロン

### 3 川崎市の福祉

#### (1) いろいろな福祉施設

川崎市では、赤ちゃんから高齢者まで、みんなが幸せに暮らせるように、いろいろな施設を造っています。

お父さんやお母さんが安心して働けるように、赤ちゃんや小さい子どもを預かり、お世話をしている保育園があります。

また、こども文化センターやわくわくプラザでは、様々な工夫をして、子どもたちが自由に遊び、共に学び合うことができるようにしています。

いこいの家に行くと、将棋や囲碁、体操など、高齢者が趣味や健康のための活動をして、楽しく過ごしています。

身体障害者福祉センターでは、障害のある人が自立した生活を送れるように支援をしています。

#### 川崎市の主な福祉施設

施設名	施設数
保育所等	561
こども文化センター等	59
わくわくプラザ	114
老人いこいの家	48
身体障害者福祉センター	4

(令和5(2023)年4月現在)

※川崎市にある福祉施設は、40～45ページでもしょうかいしています。

#### (2) 福祉を支える人々

「みんなが幸せであること」が、福祉を支えている人々の願いです。

川崎市では、この願いを実現するため、地域みまもり支援センターなど様々な相談窓口をつくり、市民からの相談にのっています。

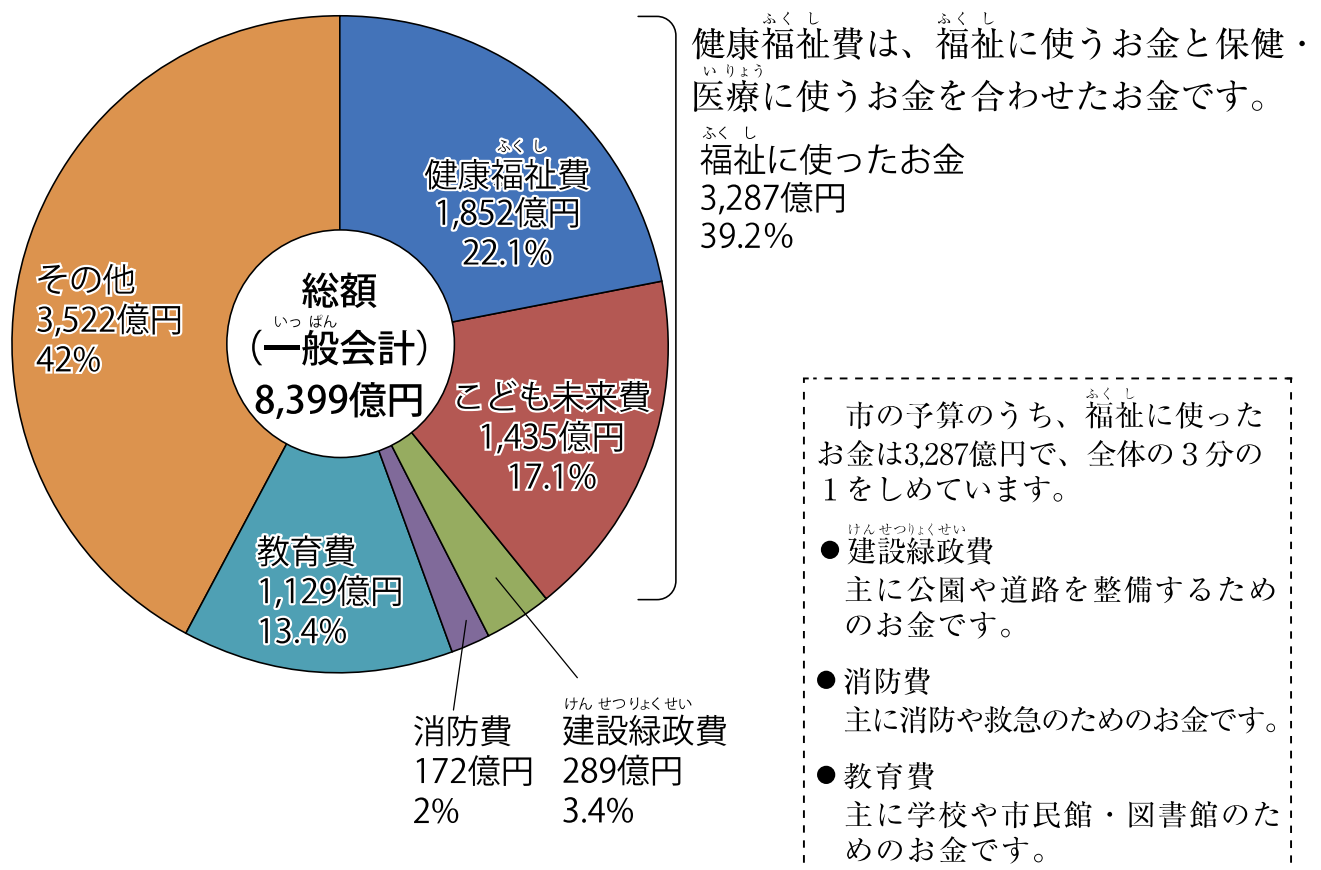
また、保育園などで働く保育士、老人ホームや高齢者の家などで働くホームヘルパー、こども文化センターやわくわくプラザのスタッフやボランティアなど、大勢の人たちが川崎市の福祉を支えています。

### (3) 福祉に使うお金

川崎市は、お父さんやお母さんたちが納めた税金の中から、福祉のために、令和3（2021）年度には3,287億円のお金を使いました。

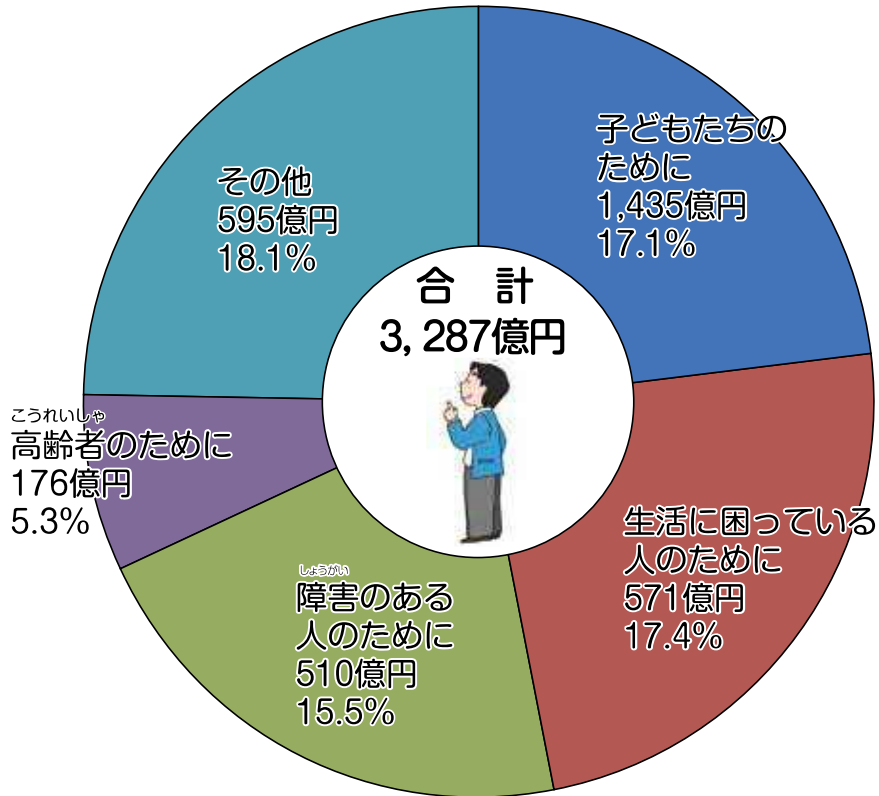
福祉のお金は、障害のある人や高齢者の施設を造ること、生活に困っている人や子どもたちのためなどに使われています。

税金の主なつかいみち（令和3（2021）年度）

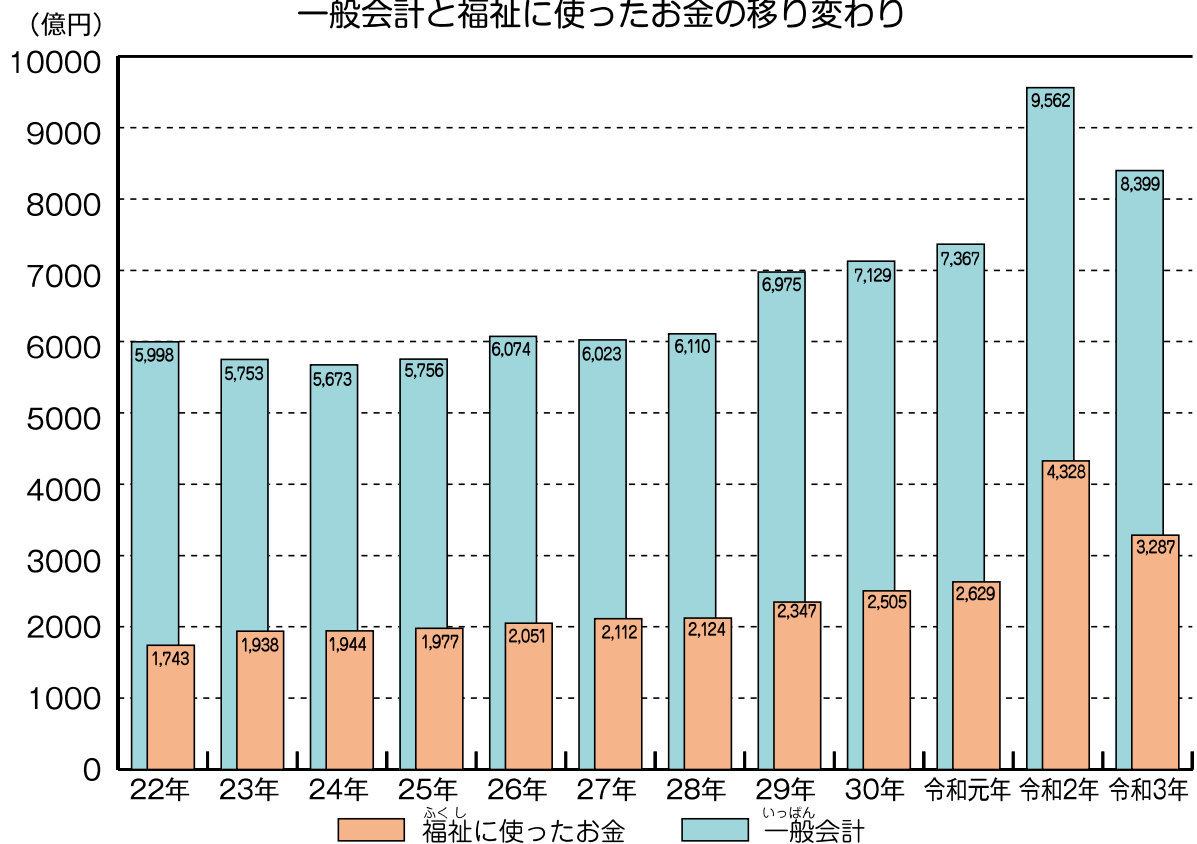


一般会計…市の予算の中心となるもので、市民の税金を主な財源とした、保健や福祉、ごみ処理、教育、消防など市の基本的な運営に使うお金のことです。

ふくし  
福祉のお金の使いみち (令和3 (2021) 年度)



いっばん 福祉  
一般会計と福祉に使ったお金の移り変わり



※令和2年度は、新型コロナウイルス感染症のえいきょうで、特別定額給付金の給付や感染症対策、川崎  
じもと応援券の発行や中小企業への融資（お金を貸すこと）などを行ったため、使ったお金が増えました。  
※福祉に使ったお金は、健康福祉費とこども未来費の総額です。